

まだまだあります！ 観光資源

文化財



▲甲賀三大佛（左から大池寺釈迦如来坐像、樺野寺薬師如来坐像、十楽寺阿弥陀如来坐像）（撮影：藤原弘正）

**21万人超を魅了
樺野寺の仏像**

平成28年、東京国立博物館で樺野寺（甲賀町）所蔵の仏像20点を集めた「平安の秘仏展」が開催され、21万人を超える人を魅了しました。

今年のは、33年に一度の大開帳を迎えます。また、大池寺の釈迦如来坐像、樺野寺の薬師如来坐像、十楽寺の阿弥陀如来坐像は甲賀三大佛として知られています。

**豆知識
市内は文化財の宝庫**

本市が誇る指定文化財の数（277件）は、県内でも有数の質と数を誇ります。うち、国の重要文化財に指定された仏像の数は47件にものぼります。



▶樺野寺 木造十一面観音坐像（撮影：藤原弘正）

東海道の宿場町

江戸時代には、東西往来の要として東海道が市内を横断し、土山宿と水口宿が東海道五十三次の49番目、50番目の宿場町として栄えました。歴史を感じさせる街並が今も残っています。



▼万人講常夜燈（土山）



▲東海道伝馬館（土山）

▼土山宿本陣跡（土山）

▲横田渡常夜燈（水口）

インタビュー 原石を磨いて星に、つないで星座に



甲賀市観光協会
会長 小山剛さん

市内には、熱い思いで守られてきた、城郭や祭り、神社仏閣などの資源があります。今はこれら一つひとつが小さな原石ですが、磨いて星にし、日本遺産の「忍者」のストーリーに関連つけることで魅力が増します。地域の誇りを宝に変え、観光客が来ることで産業に発展すると、その宝をもっと大切にしようと思うものです。まずは市民が地域の魅力を知り、その価値に気づくこと、そしてまち自慢をすることが、地域の活性化、観光振興につながります。「観光まちづくり」が甲賀市にとっては必要だと思います。

市民の皆さんにとって何気ないもの、もしくは伝統的に続く地域の日常そのものが、訪れる人にはとても貴重なもので、観光資源となる可能性が高いのです。

国史跡

市内には国史跡が4つも

市内には「紫香楽宮跡（P6〜7で詳しく紹介）」「垂水斎王頓宮跡」「甲賀郡中惣遺跡群」「水口岡山城跡」の4つの国史跡があります。

古代・中世・近世全ての時代にそれぞれ歴史ドラマが存在します。

▼史跡紫香楽宮跡 宮町地区（信楽）



▲史跡垂水斎王頓宮跡（土山）



▼史跡水口岡山城跡（水口）



▲史跡甲賀郡中惣遺跡群 竹中城跡（甲南）

文化財は「守る」から「活用」へ

これまで、文化財は「守る」存在でしたが、これからは「地域の魅力そのもの」の存在として「守り」、そして「活用」していくことで、文化財は観光資源としての役割を担っていきます。このことは「地域の文化財」を、広く多くの皆さんに愛していただくきっかけとなるはずです。

**今年度こそ
観光飛躍の年に**

全国で観光振興の気運が高まる中、市では、世界にも通用する観光資源を市民の皆さんや事業者等、オール甲賀でさらに魅力を高め、国の制度改革や広域プロモーションを十分に活用する観光をつくります。

本年度を観光飛躍の年として、観光の拠点となるような施設や観光施策の司令塔となる組織の整備を検討しながら観光行政を強く推進していきます。

インタビュー



観光は地域文化の伝達者

信楽町観光協会
会長 奥田忠司さん

観光は裾野が広く、経済的に大きな波及効果があります。地域間競争の中で、恵まれた立地を生かし、京阪神や名古屋から人を呼び込むことが効果的だと考えています。信楽は産業観光のまちであり、「焼き物」に元気があることが第一です。人々の思いが熱く期待度の高い分、受け入れ体制も整っています。信楽に来られた方に市内の他のスポットにも訪れていただくことで甲賀市として魅力を出すことにつながると 생각합니다。観光は地域文化の伝達者です。観光を通じて市の歴史や文化を知ってもらおうという思いで取り組んでいかないといけないですね。

豆知識

約180カ所もある城館遺跡

本市は中世城館の密集地帯で、その多くが高い土塁に囲まれた土づくりの城であることが特徴です。